

令和7年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第Ⅰ回こどもサービス連絡会	参加者数	37 人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 3階 1～2 研修室
	日時	令和 8 年 7 月 3 日(金) 10:00～12:00				
主 テ ー マ	(1) 今年度の活動計画 (2) 情報共有 ① 上伊那圏域における放課後等デイサービスの課題について ② 飯島町子ども第三の居場所事業『いいちゃんハウス』について (3) 課題に対する意見交換・全体共有 ① 保護者支援について ② 放課後等デイサービス不足について (4) その他連絡					
	(1) 今年度の活動計画 上伊那圏域における放課後等デイサービスの課題共有や、支援者のスキル向上、地域資源の掘り起こしを目的に開催する。今年度は、関係機関との連携強化や、学童期の人間関係をテーマにした研修会などを計画した。 (2) 情報共有 ① 上伊那圏域における放課後等デイサービスの課題 自治体アンケート（令和 7 年 4 月時点）に基づき、以下の現状が報告された。 - 供給不足：圏域内の事業所は 28 箇所あるが、自治体の約 9 割が「やや不足」「不足している」と回答している。 - 利用目的の変化：本来の「療育」に加え、保護者の就労による居場所機能やレスパイト（休息）目的の利用が増加傾向にある。 - 現場の課題：長期休暇中の長時間利用によるトラブルや待機児童の増加が課題となっている。また、放デイを終了し地域の移行していくことが課題となっている。 ② 飯島町の子ども第三の居場所『いいちゃんハウス』 不登校児童の支援や、老朽化した中間教室の問題解決を目的に、令和 8 年 4 月に開設された。 - 施設の特徴：町直営の「学童クラブ」と NPO が運営する「第三の居場所」の複合施設である。 - 支援内容：第 3 の居場所は無料で、多様な体験機会を提供し、子どもたちの自己肯定感を育む。 - 成果と悩み：利用後に表情が明るくなる等の成果が見られる一方、有料の学童と無料の居場所の住み分けや、学校との出席扱いの連携、保護者が求める学習支援のレベル設定に苦慮している。 (3) 課題に対する意見交換 - 保護者支援：事業所が孤立して抱え込まず、子ども家庭センター等の行政や相談支援専門員と連携する「チーム支援」が不可欠である。 - 放デイ終了（地域移行）に向けて：サービス終了を「成長」と捉え、早い段階から目標を共有することが重要である。実際に、利用日数を段階的に減らして学童や児童館、あるいは自宅での留守番に移行してきた成功事例も共有された。低年齢層への早期療育を充実させることが、将来的に必要な方へサービスを届け、有効的な放デイの利用につながる。 (4) その他連絡 7 月 7 日(火)：南信子ども・若者サポートネット等に関する講演会 9 月 3 日(木)：「愛着課題を抱える子への支援」(案)についての研修会 7 月 25 日(土)：かみとくれんサマースクール防災（BCP）の情報共有の場として参加者を募集中					

ま と め	上伊那圏域の放デイ不足等の課題について確認した。子どもの成長に応じて、地域移行(放デイ終了)の視点も重要である。また、放デイでも学童クラブでもない『第3の居場所』について飯島町の取り組みを共有した。
次 回	9月3日(火) 10時~12時 こども若者部会・こどもサービス連絡会合同開催 場所：伊那市防災コミュニティセンター多目的ホール